

「平成26年度全国学力・学習状況調査」の結果について

1 はじめに

長洲町教育委員会では、長洲町の児童生徒の学力や学習状況がどのような状況にあるのかを把握し、指導の改善等に生かすために「全国学力・学習状況調査」を活用しています。

今回の調査結果を、全国や県及びこれまでの調査結果と比較することにより、教育施策の成果と課題が見えてきました。この結果を町民の皆様と共有することにより、長洲町の児童生徒の「確かな学力」の向上に取り組んでいきたいと思えます。

なお、今回の調査で得られた結果は、児童生徒の「学力の一部」であることから、今後様々な検証を行い、子どもたちの学力を多角的に把握し、さらなる指導の改善に努めていきます。

2 調査の概要

調査対象 小学校6年生 中学校3年生

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

・「主として知識に関する問題」

身に付けておかなければならない内容や、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能などに関わる問題

・「主として活用に関する問題」

知識・技能を活用する力や、課題解決のため構想を立て実践し、評価・改善する力に関わる問題

(2) 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

・学習意欲、学習方法、学習習慣、学習環境、生活の諸側面に関する調査

3 調査結果の概況

(1) 教科に関する調査

国語

	小6・A知識	小6・B活用	中3・A知識	中3・B活用
全国平均正答率	72.9	55.5	79.4	51.0
県平均正答率	71.6	54.8	79.0	51.3
町平均正答率	73.6	56.8	75.0	46.3

算数・数学

	小6・A知識	小6・B活用	中3・A知識	中3・B活用
全国平均正答率	78.1	58.2	67.4	59.8
県平均正答率	79.3	58.5	67.4	61.6
町平均正答率	80.8	59.4	59.6	53.6

【分析と対策】

- ・小学校の国語では正答数の分布が全国や県の分布と似ていて、良好と言える。
- ・中学校は国語・数学とも、正答数の少ない生徒が多く、偏りがある。
- ・小学校では「算数A知識」の問題で全問正解した児童が多かった。
- * 正答数が少ない児童生徒を重点的に指導する取組に力を入れていきたい。
- * 学校間格差や個人格差が見受けられるので、一人一人の児童生徒の実態に合った教育指導ができるように、指導助言及び環境整備に力を注いでいきたい。
- * 長洲町学力向上対策委員会を活性化し、実態把握と対策について検討を重ね、学力向上のための取組を推進していきたい。

(2) 生活に関する調査

生活習慣は学習の結果に大きな影響を与えます。それぞれの学校からの生活に関する調査の結果をご覧いただき、家庭でできる改善点があれば改善をお願いします。

携帯やスマホの使用時間が長いほど平均正答率は低くなっていることが全国的に問題となっています。長洲町教育委員会でも携帯やスマホの使用については危機感を感じており、学校や関係機関と連携してその対応策を講じていきたいと思えます。

P T Aと連携し、「早ね・早起き・朝ごはん運動」などに取り組み、生活習慣の確立を図り、学力向上につなげていきたい。

4 これからの取組について

各学校には「学力向上対策プラン」が作成され、そのプランに沿って学力向上が図られ実践されているが、学校間格差がみられる。今後、対策を立て、学力向上のための取組を行うように指導助言をしていきたい。また、長洲町学力向上対策委員会作成の「学力向上のための3つのアクションプラン」があるが浸透していないと感じている。P T Aと連携しながら家庭学習の充実を図り、学力向上を目指していきたい。また、六栄小学校は熊本県教育委員会の「学力充実研究推進校」の指定、腹赤小は玉名荒尾地区教育委員会連絡協議会の指定を受け学力の向上を目指しているところである。